

加曽利かわらばん

2022. 10 号

第1回
ワークショップの
結果報告



第1回加曽利貝塚と新博物館をつなぐルート開発に関するワークショップを、令和4年10月29日(土)14時30分～16時30分@都賀コミュニティセンターにて実施しました。参加者23名による活発な意見交換がなされました。

01 当日のプログラム



開会の挨拶を文化財課の蚊合さんから頂きました。

今回ワークショップの目的やルートの案を事務局から説明しました。

グループにわかれてテーマについて話し合いました。

グループの意見を代表者が発表した後、本日の意見を簡単にまとめ共有しました。

02 グループに分かれた話し合いの内容

ルート案に対する主なご意見

A班



〈ルート〉

- ・小規模橋梁案には賛成、しかし移動の面に検討が必要
- ・川が暴れたり、越流し水浸しになる
- ・ルートを谷頭橋にした方が良い
- 〈ルート上の施設〉
- ・園内に土器、動植物、掲示板
- ・散歩距離を示す標識を周辺含め設置
- ・景色を見るためのベンチの設置
- ・ルートの途中に展望台を設ける
- ・樹木を使った日陰、藤棚的なもの
- ・台風で壊れにくい堤防
- ・手すり(夏場熱くない材質)

〈見学の仕方〉

- ・見学ルートをワンスルーにすべき
- ・クイズラリーをしながら見学できるシステムを考える(子供向け)
- ・エレベーター以外に道路・階段もあると混雑時にスムーズに
- ・団体利用者が帰るとき史跡側からバスに乗れる配慮が必要
- 〈環境配慮〉
- ・ホタルの生息地の谷津田をあまり触らないように
- ・橋兩岸の水生生物を保護すべき

B班



〈ルート〉

- ・橋が小さくなると遊歩道が長くなり、移動の時に退屈しない工夫が必要
- ・エレベーター及び通路のワクワク感の工夫、エ感も
- ・時間をうまく体験の演出
- ・地層、発掘物を楽しみながら歩く
- ・史跡に入った時感動させるものが必要
- ・団体見学者(小学生等)に対応可能?
- ・エレベーターが複数機あるといい
- ・貝塚側のバリアフリー大切
- ・悪天候時の安全

〈縄文の景観・自然への配慮〉

- ・橋の欄干の景観と安全性
- ・自然のことも学べるように
- ・景観を邪魔しない橋
- ・地下道方式(博物館内・坂月川河底・史跡前)、緩やかな入ロブ、動く歩道
- 〈別ルート〉
- ・徒歩以外のルート、桜木駅・貝塚・博物館をつなぐ交通ルート(ミニミニバス等)もあつてよいのでは
- ・小倉台側の繁栄につなげていきたい

C班



〈ルート〉

- ・新博物館とエレベーターは一体とする
- ・展示物を見終わったエレベーターの前に出るなどどうか
- ・歩行距離が長すぎる、老人・子供が回遊するには距離がありすぎ
- ・博物館から史跡に行きたいと思うような橋が必要
- ・バリアフリーを考慮してほしい

〈アイデア〉

- ・小倉台駅からロープウェイやケーブルカーで博物館までのルートを作る
- ・動く歩道をたくさんつづつてほしい
- ・長さ20mの太鼓橋が良い、真ん中にいたら史跡が見える
- ・市民の散策路との調和を考えた整備をしてほしい
- ・自然の景観を生かす

03 話し合いのまとめ

各グループの意見を共有すること、共通のキーワードが見えてきました。

①ルート

- ・景観を邪魔しない橋が良い
- ・バリアフリーを考慮(雨天時の安全性や浸水に対する対応を含む)
- ・高齢者や子どもが回遊するには歩行距離が長い
- ・小規模橋梁案には賛成、しかし移動の面に検討が必要

②見学ルート

- ・見学ルートをワンスルーに
- ・団体利用への対応が必要

③魅力づくり・ルート上の工夫

- ・園内に土器、動植物、掲示板
- ・景色を見るためのベンチの設置
- ・橋が小さくなると遊歩道が長くなり、移動の時に退屈しない工夫が必要
- ・ホタルへの配慮

これらの意見を踏まえて、加曽利貝塚と新博物館をつなぐルートについて、引き続き検討していきます。

04 次回のご案内

加曽利貝塚と新博物館をつなぐルート開発に関する、第2回ワークショップを開催します！

日程の詳細は別途お知らせ予定です。